

認知症ケアパスとは

認知症の症状の進行にあわせ、いつ、どこで、どのような医療やサービスを受けることができるのか、示すものです



さぬき市 認知症ケアパス

第1版 平成27年4月1日

発行者：さぬき市地域包括支援センター

場所：さぬき市長尾支所介護保険課内

電話：0879-52-0410

		軽度認知障害	認知症（右にいくほど進行している状態）				
			認知症疑い	日常生活は自立	見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助けが必要	常に介護が必要
本人のこころ構え	本人のこころ構え	<ul style="list-style-type: none"> ●認知症について知る ●予防のため健康診断を受ける ●生きがいをもって生活する 					
本人の様子や気持ち	本人の様子や気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れは多いが自立して生活できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●約束が思い出せない ●やる気が出ない ●不安が強い ●「物を盗られた」等のトラブルが増える ●忘れることは多いが日常生活は自立 		<ul style="list-style-type: none"> ●徘徊が多くなる ●妄想が多くなる ●すぐ興奮する ●着替えや食事、トイレがうまく出来なくなる ●ついさっきのことも忘れる 	<ul style="list-style-type: none"> ●表情が乏しい ●日常生活全般にいつも介護が必要 ●家族の顔や使いなれた道具が分からない 	
家族のこころ構え	家族のこころ構え	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事やボランティアを行うなど社会参加してもらうよう働きかける ○いつもと違う、何か様子がおかしいと思ったら早めに <p>地域包括支援センターに相談する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認知症の症状や接し方を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族だけで抱え込まず、地域の方にも協力してもらう <p>接し方のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○驚かせない ○急がせない ○自尊心を傷つけない 		<ul style="list-style-type: none"> ○介護者自身が健康管理を行う ○介護の負担が増えるため困ったことがあったら抱え込まず担当ケアマネジャーや <p>地域包括支援センターに相談する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○食事や排せつ、入浴など出来ないことが増え、合併症を起こしやすくなることを理解する ○どのような終末期を迎えるか家族間でよく話し合っておく 	
			初期	中期	後期		
相談先	相談先	地域包括支援センター	地域包括支援センター 在宅介護支援センター	地域包括支援センター 在宅介護支援センター ケアマネジャー	地域包括支援センター ケアマネジャー		
介護予防	介護予防	老人クラブ ふれあいサロン いきいき健康教室 介護予防サポーター	老人クラブ ふれあいサロン いきいき健康教室 介護予防サポーター				
見守り	見守り	民生委員 認知症サポーター	民生委員 認知症サポーター				
医療	医療	かかりつけ医 もの忘れ外来 認知症疾患医療センター	かかりつけ医 もの忘れ外来 認知症疾患医療センター	かかりつけ医 もの忘れ外来 認知症疾患医療センター	かかりつけ医		
生活支援	生活支援		介護保険サービス 宅配サービス（弁当・食材）	介護保険サービス 宅配サービス（弁当・食材）		介護保険サービス	
住まい	住まい	自宅	自宅	自宅		自宅 入所施設	
家族支援	家族支援	認知症サポーターキャラバン ロバ隊長	認知症を抱える家族の会	認知症を抱える家族の会		認知症を抱える家族の会	



認知症

かも…?



認知症になっても できるだけ自分らしく暮らし続けていくために

さぬき市地域包括支援センターにご相談ください!

○開設日時 月曜日～金曜日(祝日、年末年始を除く) 8時30分～17時15分
○電話:0879-52-0410 ○場所:さぬき市長尾支所 介護保険課内



早めの行動が大切です

気づき・相談

健康や介護の相談を受付けています

本人
家族
近所の方

自治会、老人会
民生委員、サロン
ケアマネジャー

こんなことはありませんか?



認知症のチェックをしてみましょう

- 物の名前が出てこなくなった。
- 同じことを何回も言ったり、聞いたりする。
- ささいなことで怒りっぽくなった。
- 財布を盗まれたと騒ぐ。
- 慣れている道で迷ってしまう。
(普段降りている駅がわからなくなる)
- 夜中に突然起きだして騒ぐ。
- 置忘れやしまい忘れが目立ってきた。
- 以前に比べ、だらしなくなった。
- 簡単な計算ができなくなった。
- テレビの内容が理解できなくなった。

若年性認知症とは?

認知症は高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」とされます。全国では4万人近くいると言われています。

診断・治療

受診の支援やお近くの病院を紹介します

かかりつけ医

身近な医療機関です。必要な時には専門の医療機関を紹介してもらえる場合があります。気になる症状を相談しましょう。

認知症専門医って?

もの忘れ外来、心療内科、精神科など
認知症かどうかの診断を受けることができます。早期に適切な治療を受けることで、今できることを保てる可能性が高くなります

認知症疾患医療センター

介護や福祉サービスなど、地域との連携の強化などに取り組んでいます。
認知症に関する専門の相談窓口があり、認知症専門医療を提供しています。(受診は原則かかりつけ医からの紹介が必要です)



【受診に先だって整理しておきたい項目】

- ・もの忘れは、日常生活に支障をきたすほどのものか
- ・最初の異変は、いつの間にか出てきたのか、突然に出てきたのか
- ・この半年の間に症状は進行したか
- 本人のこれまでの病気や服用中のお薬について

地域で暮らす

さまざまな機関と連携して、生活全体を支援します

介護保険サービス

生活の困り事に支援を受けられます。利用には介護保険の認定が必要です。

- ・居宅サービス
(通所サービス、訪問サービス等)
- ・施設サービス
- ・地域密着型サービス

在宅介護支援センター、ケアマネジャー

介護などに関する相談に応じ、保健・福祉サービスが総合的に受けられるよう支援をしていきます。

介護・生活の支援

成年後見制度・日常生活自立支援事業

判断力が十分でない人の財産や生活を守るお手伝いをします。

地域みんなで支えます



認知症を抱える家族の会

認知症の方を介護している者同士が、情報交換をしたりそれぞれの思いを語り合ったりできる場です。

弁当や食材の宅配サービス、移動販売

日々の買い物や食事を支援します。利用する方の生活を見守る機会にもなります。

地域づくり

認知症サポーター

認知症についての理解を深められるよう、地域で養成講座を行っています。

地域の見守り

自治会、老人クラブ、ふれあいサロン、民生委員、いきいき健康教室 など

連携